



## ❁ 20年以上働いて思うこと ❁

私は、中学生と高校生の2児の母であり、砂防職として兵庫県に就職して、かれこれ20年以上になる。

この執筆では、今まで就いた仕事、励まされた言葉、仕事を続ける上で考えていることなどをお伝えしたい。

初めの勤務地は、兵庫県北部にある事務所だった。就職氷河期時代で面接時に、車運転できます、どこでも行きますと言った結果こうなったと思う。

初めての職場で土木用語もよく分からない、知り合いもない状態で、道路、河川、砂防の現場を担当し、仕事は大変で、つらいこともあり右往左往していたが、上司は厳しいけど頼りになる方ばかり。若い職員も多く、休日には夏はバーベキュー、冬はスキーと、学生時代と同じように遊びに行き、忘れられない楽しい思い出の職場になった。

次の職場は、県庁砂防課。希望した課だったが、H16.10に台風23号災害が起こり、災関緊急砂防を10件申請、測量・設計・工事（事故線）までを約2年で終わらせる目標で、県庁でも怒濤のような日々だった。砂防課在職中に結婚し、2人の子供を出産。9年間大変お世話になった。

その後は、阪神間の事務所街路事業や外郭団体が橋梁長寿命化対策にも関わり、何でも挑戦してきたことが、今となっては貴重な経験になっていると思う。

40代で監督職。神戸の事務所での砂防課長を経て、現在の砂防課での勤務が経歴となる。

たくさんの方に公私とも助けられてきたが、言葉によって肩の力が抜けたことがある。

- ①「仕事は誰でも代われるが、子供を産み育てる事はあなたしかできない仕事。気兼ねなく休んだら良い。」(同僚) → 育休は2人とも約1才半まで取得。その頃の子育てサークルでできたママ友とは今も子育ての悩みを相談でき、子供連れでご飯会、ピクニック、旅行に行ける友人になっている。
- ② 役職が上がれば、何事もその役に依じてできるようになる。(上司) → 中々自信が持てませんが。
- ③ 行政の仕事は、法令、規則、基準等に基づいているかを一番に考えること。事例はその次、事例が正しいかも考えること。(上司) → 肝に銘じている。
- ④ 各世代の女性たちがそれぞれにできることを成し遂げ、次の世代に何らかのバトンを渡すことで働く環境はどんどん良くなってきた。(ノーベル賞受賞者ゴールドウィン氏) → 私が働き始めた頃女性土木職は10人程だった

が、今は70人以上に。次の世代につなぐために私も頑張ろうと思う。

今までの経験上感じていることは、

- ① 何事も挑戦してみる。土木は経験工学と言われるなか、同じ仕事はないが、応用しながら進めていくようにしている。
- ② 辛いことがあっても、いつかは終わりが来ること。住民対応等でしんどい時期もあるが、何度か話をするうちに理解し合えることも。自分ができなくても、上司や誰かに相談する、代わってもらうのも方法。
- ③ 子育てについて、保育所や学校（学童保育）の時間の方が長いので、子供が段階的にできることは専門家にお任せ。子供が小さいうちは、自分の時間が少なく、イライラすることもあったが、仕事と同様「やることリスト」等で時間短縮の工夫をした。平日のランチやコーヒータイムが息抜きになることも。言うことを聞かない我が子も、自分や旦那の子供の頃の話の聞くと同じ状況だったようで少し納得できた。子供はすぐ大きくなり、可愛い時期は一瞬で過ぎていく。最近、写真で思い出しては「小さいときは本当に可愛かった」が口癖になっている。
- ④ 休日は仕事のことを忘れて気分転換するワークライフバランスが重要。仕事はやりくりして子供の行事には必ず出席し、子供が就学前は夏休みシーズンの混雑を避けた旅行に行き費用も抑えることができた。子育てが一段落(?)し、最近ハマっていることは、週末に美味しいお酒を飲み、たまに旅行やキャンプで非日常を味わい、体力作りにランニング(写真)を少々している。

最後に、今まで色々な方にお世話になり何とかここまで続けることができたことを大変感謝している。まだ、あと約20年(定年延長はつらい)は残っているので、今後とも皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

(西村 志真子・兵庫県土木部 砂防課 砂防班長)



写真 ランイベントで15kmを走り優勝！賞品は新米30kg (^ ^)v